

### 3.阿蘇草原再生募金の活動状況と助成支援活動報告

#### ■ 第1期募金と活用結果

平成22年11月にスタートした阿蘇草原再生募金は、幅広い人々の力で阿蘇の草原を守っていく仕組みのひとつとして立ち上げられました。平成25年3月末には第1期が終了し、募金件数は4,092件、総額7,038万円となりました。

平成23年9月からは、第1期募金を活用した様々な助成活動が始まっています。

#### ▼第1期募金の状況（累計）

| 時期        | 件数      | 募金額(利息含む)    |
|-----------|---------|--------------|
| 2011.3 月末 | 651 件   | 18,986,325 円 |
| 2012.3 月末 | 3,713 件 | 45,271,626 円 |
| 2013.3 月末 | 4,092 件 | 70,385,083 円 |

#### ▼第1期募金を活用した助成活動の実施状況

| 第1期助成 | 助成対象の大枠  | 募集期間      | 助成先決定             | 支援活動実施期間      | 助成総額                    |
|-------|--|-----------|-------------------|---------------|-------------------------|
| 第1弾助成 | 草原維持管理の継続、草原を守る担い手づくり(草原環境学習)                              | H23年7月～8月 | 第13回協議会(H23.9.6)  | H23年9月～H24年3月 | 1,148万円(実費)             |
| 第2弾助成 | 草原維持管理の継続、生物多様性保全、草原環境学習の推進                                | H24年1月～3月 | 第14回協議会(H24.3.14) | H24年4月～H25年3月 | 1,195万円(実費)             |
| 第3弾助成 | 指定枠(繁殖あか牛導入、野焼き支援)<br>自由枠(草原維持管理の継続、草原を守る担い手づくり、草原環境学習の推進) | H25年1月～3月 | 第16回協議会(H25.3.12) | H25年4月～H26年3月 | 1,301万円(見込み)<br>※保留案件あり |

#### ■ 協議会構成員による募金の取り組み〈募金キャンペーンの実施結果(平成24年度)〉

| NO. | 実施日       | 場所        | タイトル                | 募金額(円)  | 構成員参加者 |
|-----|-----------|-----------|---------------------|---------|--------|
| 1   | H24.8.4   | 大観峰       | 九州北部豪雨災害緊急カンパ       | 186,993 | 27名    |
| 2   | H24.10.14 | 俵山交流館 萌の里 | 萌の里募金キャンペーン         | 131,261 | 19名    |
| 3   | H24.10.28 | 高森町月廻り公園  | 「あそ千年祭」会場募金キャンペーン   | 55,864  | 28名    |
| 4   | H24.11.17 | 熊日びぶれす広場  | 和ゴコロ塾2012会場募金キャンペーン | 12,268  | 2名     |
| 5   | H24.11.18 | 大観峰       | 大観峰募金キャンペーン         | 97,793  | 11名    |
| 6   | H24.12.2  | 俵山交流館 萌の里 | 萌の里募金キャンペーン         | 46,896  | 21名    |
| 7   | H25.1.26  | 熊本市アーケード街 | 新春街頭募金キャンペーン        | 61,050  | 19名    |
| 8   | H25.3.24  | 熊本市アーケード街 | 街頭募金キャンペーン          | 76,313  | 26名    |
| 小計  |           |           |                     | 776,067 | 213名   |

#### ■ 第1期募金を終えて

##### ●感謝状の贈呈（協議会）

第16回協議会（H25年3月）では、第1期募金でご協力いただいた多くの募金者（団体）に対して感謝状を贈呈しました。（欠席者には別途対応）

くまモンへの贈呈の様子  
▼（H25年1月26日）



##### ▼感謝状贈呈対象者（特に募金集めや広報に貢献していただいた方々）

|  |   |
|--|---|
| <p>《特別協賛企業・団体》<br/>株式会社肥後銀行、九州電力株式会社、熊本日日新聞社、株式会社熊本放送、一般財団法人化学及血清療法研究所、南九州コカ・コーラボトリング株式会社、丸住製紙株式会社、日本製紙株式会社、熊本第一信用金庫、株式会社城野印刷所、熊本県畜産農業協同組合連合会、JAグループ熊本6団体、東京エレクトロン九州株式会社、生活協同組合連合会グリーンコープ連合、グリーンコープ生活協同組合ふくおか、グリーンコープ生活協同組合くまもと、グリーンコープ生活協同組合ひろしま、富士ゼロックス熊本端数倶楽部、九州旅客鉄道株式会社、有限会社肥後化学白蟻研究所、株式会社ヒライグループ</p> <p>《寄付金付き商品による協賛企業》<br/>イオン九州株式会社、株式会社クオカード、株式会社伊藤園</p> <p>《熊本経済3団体》<br/>熊本商工会議所、熊本経済同友会、熊本県経営者協会、</p> <p>《地元小学生》<br/>阿蘇市坂梨小学校のみなさん、阿蘇市碧水小学校のみなさん</p> <p>《一般募金者代表》<br/>くまモン(熊本県営業部長)</p> | <p>《順不同》</p> <p>《報道機関代表》<br/>NHK熊本放送局</p> |
|--|---|

##### ●提言2013「阿蘇千年の草原を次世代へ」採択（阿蘇草原再生千年委員会）

第7回阿蘇草原再生千年委員会（2013年2月開催）にて提言2013が採択されました。（次ページ参照）

## 阿蘇草原再生千年委員会提言2013 「阿蘇千年の草原を次世代へつなごう」

21世紀は自然共生社会に向かうと言われていています。そのような中、千年を超える人と自然の共生の歴史を持ち、多様な美しさを見せる阿蘇の草原は、私たちに大きな恵みをもたらすとともに、豊かな心と大きな活力を与える、世界の宝と呼ぶにふさわしい場所です。

現在、存続の危機に立つ、この阿蘇の草原を将来に残していくため、阿蘇草原再生千年委員会は、平成22年10月に、草原の再生に取り組む阿蘇草原再生協議会の活動と、阿蘇の世界文化遺産登録に向けた取り組みを支援することを目的に、行政、経済界、学会、報道機関の代表が一堂に集い発足しました。その後3年足らずの間、阿蘇の草原が有する価値や、課題を解決するための方策について熱心に議論してきました。

また、熊本をはじめ、九州全体に対して、阿蘇草原再生募金への協力の呼びかけを行ってきました。この取り組みの間に、東日本大震災、九州北部豪雨災害などの未曾有の大災害が発生するとともに、野焼き支援ボランティアの死亡事故など、あってはならない事故も発生しました。しかし、この募金の取り組みは、多くの賛同を頂けたことで一定の実を結び、6800万円以上（平成25年3月末見込み）の募金を集めることができました。この貴重な募金は、繁殖あか牛の増頭、樹林化した放棄地の草原再生、野焼き支援ボランティア活動の充実などに活用されることで、草原の再生に大きく貢献しました。さらに、阿蘇草原再生千年委員会での議論を契機に、熊本県では「阿蘇草原再生ビジョン」策定に向けた取り組みが進むとともに、熊本経済3団体による募金の開始にもつながるなど、阿蘇の草原再生は新たな一歩を踏み出しました。

その一方で、草原再生を支援する取り組みは、熊本県外への広がりが不十分であるのが現状です。また、草原を維持する牧野組合員などの高齢化や後継者の不足は確実にすすみ、草原の危機的な状況は更に進行しています。世界文化遺産登録に向けた取り組みも、これまで以上に加速していかなければなりません。

このような状況を踏まえ、この広大な阿蘇千年の草原を国民共有の宝として次の千年に引き継いでいくために、官民が連携して、次のとおり、阿蘇の草原再生に取り組む必要があることを広く国民に提言します。

- 一、人と自然の共生により千年の歴史を誇る阿蘇草原が、これ以上減少することに歯止めをかけるため、草原再生の基盤となる地域の産業の振興と担い手の育成を進めること。
- 一、観光や水などの阿蘇の草原の恵みを受ける広範な人々の理解と協力を得て、草原再生に向けた恒久的な財源の確保に努めること。
- 一、日本を代表する景観であり、九州の宝である阿蘇の「世界文化遺産」登録を早期に実現し、九州全体の観光振興を目指すこと。

以上

平成25年2月12日

阿蘇草原再生千年委員会

|     |                      |       |                      |       |
|-----|----------------------|-------|----------------------|-------|
| 委員長 | 前熊本県立大学学長            | 米澤 和彦 |                      |       |
|     | 熊本放送社長               | 浅山 弘康 | 九州経済同友会代表委員          | 石原 進  |
|     | 熊本日日新聞社社長            | 伊豆 英一 | 肥後銀行頭取               | 甲斐 隆博 |
|     | 熊本県知事                | 蒲島 郁夫 | 熊本市長                 | 幸山 政史 |
|     | 阿蘇草原再生協議会会長          | 高橋 佳孝 | 生活協同組合連合会グリーンコープ連合会長 | 田中 裕子 |
|     | 環境省九州地方環境事務所長        | 塚本 瑞天 | NHK熊本放送局長            | 中島 靖夫 |
|     | 九州経済連合会会長            | 松尾 新吾 | 農林水産省九州農政局長          | 吉村 馨  |
| 事務局 | 公益財団法人 阿蘇グリーンストック理事長 | 佐藤 義興 |                      |       |

## ■ 第2弾助成結果一覧

実施期間：平成24年4月～平成25年3月

| 活動区分                  |                         | 助成内容<br>(実施内容)  | 交付額(円)     | 助成対象等                             |
|-----------------------|-------------------------|---|------------|-----------------------------------|
| 草原維持<br>管理の継<br>続     | ①繁殖あか牛導入                | 繁殖用あか牛の導入に対し、1農家1頭につき6万円を助成   | 4,920,000  | 82頭(農家)                           |
|                       | ②野焼き(管理)放棄地の草原再生活動      | 野焼き(管理)放棄地(計18ha)での野焼きを再開する作業費の一部を助成  | 1,200,000  | 中無田原野管理組合有志の会(阿蘇市)<br>龍神牧野組合(阿蘇市) |
|                       | ③草小積みの制作・設置と草原文化のPR     | 牧野組合の制作・設置費用の一部支援として、一基あたり5千円を助成  | 50,000     | 村山牧野組合(高森市)/10基                   |
|                       | ④野焼き支援ボランティアの運営管理に関する活動 | 輪地切り(焼き)支援54回1105名<br>野焼き支援52回998名/合計2103名  | 3,500,000  | (公財)阿蘇グリーンストック                    |
|                       | ⑤野焼き・輪地切り支援活動           | 10月参加学生10名3牧野支援やインタビュー。学内発表会。阿蘇での学習会は次年度予定。   | 120,000    | Link ASO(兵庫県)                     |
|                       | ⑥未利用草地の利用再開             | 未利用草地19ha55t採草(オペ)。10ha(戸狩)。利用普及・採草再開に係る費用を助成   | 500,000    | バイオマスオペレーター組合(阿蘇市)<br>戸狩牧野組合(高森町) |
| 様々な動植物が生息・生育する草原環境の再生 | ⑦草原に生息・生育する動植物に関する調査    | 阿蘇地域の希少種(昆虫類)生息調査<br>採草による草原環境への影響調査<br>設置調査区内に約22種の植物確認。<br>採草は約2.5ha、野草堆肥の原料に活用。        | 300,000    | 寺崎昭典氏(熊本市)                        |
|                       | ⑧動植物の保全に向けた草原利用のPR      | 野草を利用した農産品生産に関する広報活動として、パネルと3つ折りリーフレット3000部作成。配付活用  | 150,000    | 阿蘇草原再生シール会                        |
| 草原を守る担い手づくり(草原環境学習)   | ⑨草原環境学習の推進              | 小学生対象の生き物観察会を予定したが、7.12暴雨災害のため開催困難につき中止。パンフレット・通信費を支援。                                    | 66,000     | なみのやすらぎ交流館(阿蘇市)                   |
|                       |                         | 草原環境学習資料作成とプログラム試行を支援。<br>・阿蘇郡市河川流域界図<br>・降った雨水の流れ解説図(紙芝居)<br>他マニュアル、プログラム作成、阿蘇地域4小学校で試行。 | 130,165    | 阿蘇火山博物館(阿蘇市)                      |
|                       |                         | 阿蘇草原の出前講座(2校)とシンポジウム開催(250名参加)。阿蘇の自然の恵みと豪雨災害も含めた発表もあり。より自然に対する関心の広がり。                     | 117,384    | 阿蘇火山博物館(阿蘇市)                      |
|                       |                         | 県内小学校358校と市町村教育委員会など含めて400ヶ所に草原学習DVD寄贈。県教育長へ贈呈式をメディアリリースして広報PRが行われた。                      | 228,360    | (公財)阿蘇グリーンストック(阿蘇市)               |
|                       |                         | 野草紙卒業証書づくり<br>阿蘇市内3小学校にのべ140名に「草原学習」「草原体験」「紙すき体験」実施。                                      | 400,000    | 九州バイオマスフォーラム(阿蘇市)                 |
|                       |                         | 教職員対象の草原環境学習ワークショップを、参加者17名(欠席3名)を得て実施された。  | 95,000     | 国立阿蘇青少年交流の家(阿蘇市)                  |
| 計                     |                         |   | 11,956,909 |                                   |

## ■ 第2期募金スタート

平成25年4月から第2期募金が始まりました。期間は3年後の平成28年3月まで、目標金額は1億円です。また平成25年8月21日には阿蘇草原再生千年委員会「ステージⅡ」がスタートしました。

協議会としても、構成員一丸となって募金活動に取り組んでいくことが求められています。

### 〈第2期募金の基本的な考え方〉

「広く」「薄く」「継続的に」をスローガンに

- ・阿蘇郡市内の企業・団体等へ働きかけ
- ・第1期協賛企業・団体への働きかけ
- ・福岡をはじめ九州全域へ協力の輪を広げる
- ・募金箱や街頭募金の継続
- ・コンスタントに寄付金が集まる仕組み作り